

## 木材価格市況標準相場

令和8年3月4日

東京木材問屋協同組合  
価格市況調査委員会

### ○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	なし
(2) 値下げ品目	1
北洋材・北欧材	1

### ○今月の市況動向

2月の市況は、全体的に荷動きは低調ながらも一部で回復の兆しが見られた。多くの品目で価格は保合いまたは強保合いとなり、大きな価格変動は見られなかった。住宅着工は依然として低水準であるものの、分譲住宅や持家では回復傾向が見られ、プレカット工場の受注は比較的順調に推移している。

(国産材) 秋田の原木価格は、11月と比べて約12%下落した。また、先月に引き続き、店舗関係の需要により杉の小割材は動きが良い状況となっている。構造材については、問屋商いは荷動きが低調であるものの、産地では受注が堅調であるとの報告があった。

(輸入材) SPFでは、2月契約単価は先月と同水準で推移した。巾広材については、現地在庫に不足感が見られている。米材製品においては、入荷・出荷ともに低調で、特に入荷量は極端に少なく、東京木材埠頭の2月入荷量は4,640m<sup>3</sup>と、近年にない低水準となった。役物製品については、針葉樹・広葉樹ともに販売価格が高値の限界に達しており、コストは上昇しているものの価格転嫁ができず、苦しい状況が続いている。

(合板) 国内針葉樹合板では、2月も荷動きは低調であったが、東西の大手メーカーから3月以降の値上げが発表されたことを受け、他メーカーも追随する動きとなっている。輸入合板においても荷動きは低調であるものの、現地メーカーからの値下げの動きは一切見られず、再度値上げを唱える状況となっている。